

岡山・肩脊堀の内遺跡

木簡は、堀状遺構表土下約一・四mの位置で一枚出土したが、木簡抜取後は、粘土層のため同坪は崩壊して測図不能となつた。

8 木簡の釈文・内容

1 所在地 岡山県赤磐郡瀬戸町肩脊

2 調査期間 一九八二年（昭57）八月

3 発掘機関 瀬戸町教育委員会

4 調査担当者 矢部秋夫・吉岡永一

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の時代 奈良時代～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査地は、奈良時代から江戸時代にかけての館跡で、約三〇アールの一段高い田を、東南西に堀の跡を残しており農道整備のため東側堀の跡を調査した。



南北二〇m間に五個所坪掘を行なつた結果、堀状遺構がみられ暗灰色土により埋もれ深さ二・五m幅三m程度あつたと思われる。堀状遺構底部より備前焼壺(?)破片が若干及び獸骨が一片出土した。

「**□**德二年

奉轉讀大**□□**經**□**百卷守護砌也

「**□**月廿日」

374×40×4 011

材質は杉。上端を山型に作る。

（吉岡永一）

『東大寺領横江庄遺跡』刊行さる

初期庄園の遺跡として著名な石川県の国史跡・横江庄遺跡の調査報告書が刊行された。吉岡康暢氏編で松任市教育委員会・石川考古学研究会刊。内容は調査報告にあたる調査編と六編の論考を収めた研究編からなる大部なものである。研究編には「加賀・能登における掘立柱建物の類型と性格」「奈良平安時代の土器編年」「施釉陶器・陶硯・墨書き土器」「横江庄遺跡出土土器の胎土分析」「賜田系庄田に関する覚書」「北陸初期庄園遺跡の考古学的検討」といった力作がならぶ。なかでも「施釉陶器・陶硯・墨書き土器」（吉岡康暢氏）では石川県出土の墨書き土器が集成検討されており注目される。

△申込先 石川県埋蔵文化財協会

価格 七〇〇〇円 送料五〇〇円